

# 防災から減災

「用意して備えることが大事」

私たちが暮らす日本は、豊かな自然に恵まれ、文化的な発展を続けています。その一方、自然がもたらす地震や津波などの災害は、日々の暮らしを一瞬にして奪ってしまいます。過去の日本人達がどのようにして自然災害と向き合ってきたのか、私たちは歴史を学ばなければなりません。



## 「熊本地震の教訓から」 備えることの大切さ



宜野湾市 市民防災室  
主任主事 知念 佳成  
平成28年熊本地震に係る災害時応援として、平成28年6月18日～同年6月24日まで熊本県宇土市へ派遣。

派遣期間中の地震の状況  
期間中(6月18日から24日)最大震度4の地震が2回あり、それ以外にも数回の地震がありました。いつ来るかわからない地震に不安がありました。

地震後、熊本県内の被災状況を視察されています。どのような教訓を得ましたか？

私が派遣されたのが震災から2カ月余り経過していたという事もあり、物資は充実していましたが、震災直後のことを考えると、最低限度の飲料水や食料(最低3日分)の備えが必要だと思いました。非常持出袋を玄関などすぐ

今回の震災から何を学ぶべきだと思いますか？  
災害はいつ起きるか分かりません。災害時パニックにならない為に、日頃から家族で避難場所や安全な避難経路の確認をすることが大事だと思います。

震災時、自分達の身は自分で守らなければいけません。だからこそ日頃から備えておくことが大切です。

災害は「いつか」ではなく「必ず」やってくる

平成28年4月14日熊本地震、同年10月鳥取地震、同年11月には福島沖地震による津波警報の発令など、東日本大震災以降も日本各地において多くの自然災害が発生し、多大な被害がもたらされています。沖縄県においても、昨年の台風第18号では大雨特別警報などの4つの特別警報が発令されました。災害は「いつか」ではなく「必ず」やってくるものとして心構え、日頃から備えましょう。

## 防災から減災へ

大規模災害においては、想定以上の災害が発生すると堤防などのハード事業で災害被害を防ぐ「防災」には限界があることが分かりました。災害が発生し被害を受けることは避けられない以上、被害を最小限にとどめるために事前に行う取組や対策が重要であるという災害被害を減らす「減災」の考え方がかわってきました。いわゆるソフト事業として、情報伝達・情報収集の整備、自主防災組織の育成、防災マップ(ハザードマップ)の配布(周知)、備蓄食料等の整備などがあります。



1 熊本地震により擁壁が崩落した熊本城  
2 熊本地震により崩落した家屋(益城町)  
3 地震で崩壊寸前となった宇土市役所  
4 大雨により道路が冠水(6/21朝)  
5 市役所業務を体育館で行っている様子

## 自主防災組織

これまでの様々な災害被害の経験から「公助」といわれる行政(市、消防、警察など)の支援は、災害時にすぐに機能せず、「自分の身は自分で守る」という「自助」と、隣近所の地域で守る「共助」が災害発生時には有効であるといわれます。自主防災組織は、日頃から勉強会や研修会、防災訓練などを行うことにより、災害に対する認識を深め、防災意識を向上させ、災害が発生した場合に大きな力となります。自主防災組織がない地域においては、ぜひ住民の皆さまで設立に向けて機運を高めましょう。



津波避難訓練の様子



愛知区自主防災組織認定式の様子

- 市内の自主防災組織  
①大謝名団地②伊佐区③真志喜区  
④上大謝名⑤宇地泊区⑥大山区  
⑦愛知区
- 補助金の支援  
自主防災組織設立時補助 10万円  
防災資機材整備事業 200万円  
地域防災活動事業 3万円

本市においては、自主防災組織の設立支援として、講演会や勉強会の開催、避難訓練などのほか、組織運営に必要な様々な補助金の支援も実施しています。

## 情報伝達

■Jアラート(全国瞬時警報システム)により、自然災害や有事関連情報などの緊急情報を防災行政無線や携帯電話等でお知らせします。



■防災メールの登録により本市に発表される気象警報や災害時の防災情報を携帯電話やスマートフォンなどのメール機能を活用して、登録者へお知らせします。



## 備蓄食料等

普段から飲料水や非常食などを備蓄しておきましょう。

家庭備蓄は最低でも3日分、可能な限り7日分程度の備蓄をしましょう。



## 非常持ち出し品(例)

- 懐中電灯と電池
- ローソク・マッチ
- 救急箱や薬 □携帯電話
- 火や水の要らない食料
- 市販の飲料水
- 現金・貴重品・パスポート
- 携帯ラジオ □タオル
- 下着・靴下 □ロープ



## 防災マップをみましょう!

自然災害被災想定区域や避難場所・避難路などの防災関係施設の位置などを表示した地図です。市では「宜野湾市総合防災マップ」を全戸配布しておりますので、ぜひご家族でご確認してください。

